毎日の暮らしにワクワクと感動をプラス！

カムナ通信

vol.4

発行日：令和元年10月1日
（毎月１日発行）
発行人：青木敬司
株式会社カムナ・プランニング／東京都文京区目白台2-9-7-503
電話：03-3942-8633
http://kamuna-p.jp/
～コピー、転載、引用、配布はご自由にどうぞ～

こんにちは。私事ですが最近、いのちと向き合う機会を得ました。愛犬モモを持病で通院させているうちに食が細くなり、やがて呼吸が乱れ始め、改めて検査をしたところ、いきなり「あと２週間」の余命宣告。まだ７歳（人の44歳）なのに・・・。先生曰く「腎臓がんが発症して腎不全に、そしてがんが肺に転移している」とのこと。

モモは日に日に痩せていきます。ベストな治療は、栄養剤と抗炎症剤、ビタミンC点滴と毎日の薬だと伝えられます。１日約５０００円。毎日ですから覚悟がいります。ところが続けているうち、モモがみるみる弱っていくのです。「何かが違う!!」。いのちと向き合うスイッチが入った瞬間でした。

点滴の頻度を減らし、本やネットの情報で勉強して食材を集めてごはんを手づくり。３時間おきに、少量ずつ無理やり食べさせることにしました。聴診器を片手に呼吸音と心音、呼吸数をチェックする主治医、管理栄養士＆調理師、リハビリのトレーナー、手当てやパワーグッズでのヒーラー、トリマーetc。すべての役を自分でこなしました。本気になれば色々できるものですね。余命は宣告されましたが、「飼い主・家族だからこそできることがある！」と、しぶとくモモのいのちと向き合いました。

やがて点滴は不要になりましたが、ひどい発作がでると虫の息になります。一時的に心臓が止まり最後のお別れを告げた瞬間もありましたが、奇跡的に一命をとりとめます。そして関東に台風が直撃した晩、大量の吐血。人なら親族が呼ばれる量です。ところがその翌々日から呼吸が少し静かに。悪いものがでた!?のかも知れません。

愛するもののいのちが、目の前で線香花火のように燃え尽きそうな時、「何が大事で、何を優先すべきか」に気づき、理屈抜きで行動する自分がいました。今現在、宣告された余命を大きく過ぎて、元気を取り戻しつつあります。ふと感じたのは「死ぬまで生きる」という点においてはモモも私も同じということ。年月の長さが重要なのではなく、どんな思いで生きたか。一日一日の大切さを感じながら、心残りの無いよう懸命に生きていこうと心を新たにしました。モモの世話をしているつもりが、どうやらこちらが色々と学ばされているようです。いつもありがとうございます。

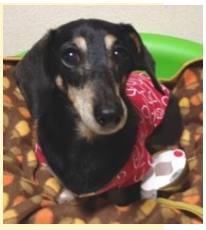
株式会社カムナ・プランニング 青木敬司拝

NEWS & TOPIC　KAMUNA PRODUCTS

ゼロ磁場パワーで生命力アップ！家族の思いと「アース」のシンクロ劇場♪

弊社でプロデュースしているゼロ磁場発生装置「テラファイトアース」を使った、びっくり体験談をご紹介します！

テラファイトアースで奇跡が！　H.S様 奈良県



愛犬クルミの元気がなくなり、左の後ろ足が気になる様子で、自分のトイレに上手く入れず失敗したり、歩行中に鳴くことがありました。一週間ほどすると自力で立てない状態に。大きな動物病院でMRIとCTを撮り、診断されたのは「脊髄炎」という中枢神経系の炎症性疾患でした。しかも、進行性脊髄軟化症であれば、後肢運動機能回復はおろか一週間もたないと言われました。治療方法はただ一つ、炎症を抑えるステロイドの点滴を数日とステロイド内服薬でした。藁にもすがる思いで、アースで脊髄と後ろ足を優しくさすってあげました。クルミは気持ちよさそうにしていましたので、毎日欠かさず続けました。

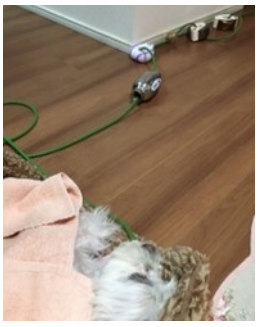
8月21日　最後の点滴が終了。自力排尿はできず。
8月26日　自力排尿ができ、大きな進歩！
8月28日　トイレで4秒ほど自立！
9月 2日　四肢自立が 10 秒以上に！
9月14日　クルミが歩いた！テラファイトアースの効果を実感☆
10月1日　診察台の上を歩く姿を披露し、先生やスタッフの皆さんから拍手喝采！

「もしかしたら一週間の命かも？」「もう自力歩行は無理かも？」とまでいわれたクルミは、奇跡的な回復を遂げました。家族の思いとアースの力がシンクロし、クルミの細胞に驚異的な回復力をもたらしたのだと信じてやみません。

おまけ

愛犬モモの闘病には、身の周りにあるパワーグッズを総動員。全力で取り組んでいます。そのひとコマをご紹介。

←酸素吸入のホースにゼロ磁場パワーを注入！左から、ネオガイア、テラファイト卑弥呼、テラファイトコア、テラファイトアース、テラファイトコスモ、の5連結！ゼロ磁場オタクです…。



←酸素吸入しながらお休み中。がんばれ、モモ！

※テラファイトシリーズについては弊社までお問合せください。

Information＆広場

いのちと向き合う情報

ごあいさつで書いたモモの出来事が起きる前に、なぜか生き死にについて関心が高まり、たくさんの本や映画を見ました。その中で印象深かった映画を３つ紹介します。

■■■その１　「長いお別れ」
～だいじょうぶ。記憶は消えても、愛は消えない。～

http://nagaiowakare.asmik-ace.co.jp/

ゆっくり記憶を失っていく父との、お別れまでの７年間。それは、思いもよらない出来事と発見に満ちた日々。笑って泣いて、前に進んでいく家族たちの、新たな愛の感動作！（HPより）

父の認知症をきっかけに、家族が互いを理解し、各々ができることを始めるなかで、新しい家族の関係性や在り方が生まれる姿を描いた物語。人と人とが共に生きることの意味について考えさせられる作品です。

■■■その２　「悼む人（いたむひと）」
～あなたは思い出す。誰に愛され、誰を愛していたか。～

http://www.itamu.jp/

事故や事件で亡くなった方の現場に出向き、その死を悼むことをライフワークにする青年。遭遇する無理解のバッシングや、心に傷を負った人々との出会いを通して得る気づきや学びの数々に心を動かされます。人はその人生において失敗や後悔、憎しみや憤りといった心の傷を負うものですが、それは、自ら向き合い昇華させる課題として遭遇する宿命なのかも知れません。目を背けたくなる困難の扉に一歩向かわせてくれる作品です。

■■■その３　「人魚の住む家」
～突然の事故。眠り続ける娘。奇跡を信じた決断が、運命を狂わせていく。～

http://ningyo-movie.jp/index.html

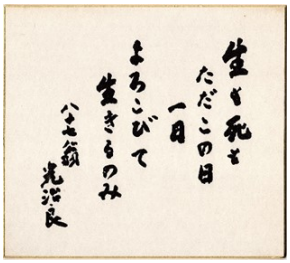
科学や医学が発達し、私たちの生命を維持する知恵と技術は進歩しましたが、知性が発達するがゆえに生命の本質から遠ざかりかねない、迷走する社会の実態が見事に描かれています。自ら産んだ子供の生命と向き合う母親だからこそ得る、善悪を超えた絶対的な感覚は、私たちの自我意識を超えた、忘れてはならない超自然的な世界を感じます。篠原涼子さんの神憑りの演技はその本質を表していて、必見です。

感動のおすそ分け

今から約25年前に出合った芹沢光治良さんの言葉を紹介します。芹沢光治良さんは、明治29年生まれの小説家。代表作の自伝的長編「人間の運命」（全14巻）で文部大臣賞を受賞。川端康成の後を受け、第5代日本ペンクラブ会長を務めた方です。「文学はものの言わぬ神の意思に言葉を与えることだ」との信念から「神の微笑」に始まる神シリーズ（全8巻）を89歳から毎年書き下ろされ、亡くなる直前まで続けられました。普段どおり原稿を執筆した後、96歳で、自宅にて老衰で逝去されたそうです。

芹沢光治良さん
沼津市ＨＰより

生も死も
ただこの日
一日
よろこびて
生きるのみ
八十七翁
光治良



25年間温めてきたこの言葉をこの場で紹介できてとても嬉しいです。当時の私は小説を読むことはほとんどなかったのですが、翁の神シリーズは食い入るように読んだことを今でも鮮明に覚えています。感動の余り、静岡県沼津市にある芹沢光治良記念館を訪問し、この色紙を購入しました。社会人になってビジネス書ばかり読み、肩ひじ張って歩いていた時に出合った翁の言葉は、今でも私の心の中で生き続けています。合掌。

カムナ・ナウ

「薬いらずで愛犬の病気は治る」（宿南章著）によると、獣医学部に入ってまず習うのが馬、次に牛だそうで、犬や猫が好きな学生さんはがっかりするそうです。犬や猫を家族とする研究が盛んになったのはここ30年くらいのことで、この教育はまだまだ不足しているのが現実。犬だけでも種類は800以上で、個性もまちまち。獣医さんがすべてに詳しいのか？むしろ一緒に暮らす飼い主さんの方が愛犬に関しては詳しいこともあるのでは？と思う今日この頃です。（ゆ）

今月の1冊　「私は、看取り士。」

柴田久美子著　佼成出版社

最期を迎える人に寄り添い、旅立ちを見守り、お見送りをする“看取り士”。周りの理解の無い中、著者がたった一人で始めた活動は25年が過ぎ、全国に350人を超える看取り士と、400近い支部が誕生しています。最期の旅立ちは、体に宿したエネルギーを受け渡す美しい行為で、エネルギーが解放される場は、まるでパワースポットのように神秘的だと言われます。現代社会は、死を忌み嫌うものとしていますが、昔ながらの風習が残る地域では、初七日はご遺体を自宅に置き、お別れまで暮らしを共にしていたそうです。2025年に約800万人が75歳以上の後期高齢者、2030年には約47万人が「死に場所難民になる」と厚生労働省から発表されています。死や弔いについて今一度向き合う時を迎えているようです。私は映画化された作品を見た後にこの本を手にしました。いずれもおすすめですので、ご覧になりやすい方をお選びいただければと思います。